

令和7年6月

「良い会社」と「いい会社」

(世間から「いい会社だね」と言われる会社になる)

一般的に良い会社と言われるのは、グッドカンパニーといわれ、規模の拡大している会社、上場している、有名な会社等です。基準は規模の拡大です。上場会社は株価を上げるために増収・増益に努めるような経営になり、売上拡大と仕入、人件費、経費は全てコストとして原価の削減をします。そのため立場の弱い中小企業からの仕入や外注費をコスト外とします。理不尽な取引を強要するために公正取引委員会より指導を受けている会社があります。中小企業でも「人を大切にする経営」よりも規模の拡大を目指している会社はいっぱいあります。規模の拡大としてM&Aは一般的に行われています。会計事務所業界の話です。ある会計事務所が大手税理士法人にM&Aされました。大手税理士法人の支店になるわけです。条件の中に、その会計事務所の売上高の20%を本部に上納するのだそうです。一般的な会計事務所は売上高(粗利益率100%)に対する人件費の割合は6割です。(古田土会計は66%)、経費は20%。売上高の30%を上納したのでは内部留保ができません。人件費を上げること、設備投資、福利厚生費も自由に使うこともできません。M&A(たばは、4年か5年で投資額を回収できることになり、借金してでもM&Aによる規模の拡大をするメリットがあります。私達古田土会計は基本的には、M&Aをしない方針です。理念、価値感を共有できることが大前提だからです。理念、価値感を共有できる会計事務所残念ながほとんどありません。四国の生駒会計さんとは、理念が共有できるので仲間になってもらいました。借金するようなM&Aは今後もません。全て自己資金でやれば相手の会社から上納金をほとんどもらわなくてもよいのです。うちのお客様でM&Aをした会社から一切配当等で資金を回収しない会社があります。資金は5億でも6億内でも全て自己資金でM&Aしています。その会社会長さんと4月29日に自宅近くで散歩していたら偶然会いました。海に向かって川添いを歩いていた、大きなゴミ袋を持ってゴミ拾いをしている人がいたので、思わず声をかけました。そしてうちのお客様の会長さんで私の自宅の近くに住んでいられ、ゴミ拾いをしているんだそうです。ゴミ拾いをしているすばい人がいたのでお声をかけただけですが、うちのお客様であることにびっくりするやうな、その人柄のすばいさ、実力に驚かされました。その会長の会社は、毎年少全社員にお米50kgを無償で配ります。その他にも浦安市にお米を寄付するそうです。子供食堂にも寄付されています。私は「いい会社」とは、このような社員思いの会社、お世話になっている地域にも貢献している会社であると思っています。規模が大きくて高給な福利厚生のよい会社か一般的には「良い会社」と言われていますが、優秀な社員を確保するための手段であり、人を大切にしている会社ではないと思います。「いい会社」とは、経営者が心の底から、社員と家族を思い、また地域社会にお世話になっているからと、清掃活動したり、寄付をしたり、障がい者を積極的に雇用したり、無私の心を持って経営している会社だと思っています。模範的な会社として伊那食品工業(株)があります。日本中から見学者が訪れ、秋でも道路に落ち葉がないとびっくりしたお客様が言っていました。社員が早朝に自主的に掃除をしているからです。「良い会社」と「いい会社」は全く違います。特に若い人達には「良い会社」ではなく「いい会社」に就職してほしいと願っています。社員を人件費として儲けるための手段としている会社と人を大切にしている会社では人生が変わるからです。具体的には、「日本を美しくする会」に会社として取り組んでいる会社、「日本が一番大切にしたい会社」にチャレンジしている会社です。またこの他にも「いい会社」が古田土会計のお客様にはいっぱいあります。古田土 満